

まとめ

1 人間の成長・発達に必要なもの

(1) 教師からの贈り物

- 子どもの内面を理解し、それにふさわしいかわりを持とうとする教師のまなざしは、子どもへの素晴らしい贈り物です。
- すべての子どもが、教師からのまなざしを必要としています。

(2) 教育的愛情に包まれて

- 教師が子どもと信頼関係を築くには、子どもがすすんで心を開くことのできるあたたかい雰囲気や、時には、子どもの壁になる厳しさが必要です。
- 子どもは、共感してくれる人に信頼を寄せ、その信頼体験をとおして自立していきます。

(3) 子どもの変化に目を向けながら

- 最近の子どもの中には、幼児期が長期化するなど、成長過程に変化があらわれています。発達の視点を大切にするとともにこれまでの子どもに対する認識を見直すことも必要です。
- いわゆる「よい子」志向に疲れている子どもや、幼児虐待・児童虐待を受けている子どもが増加しており、学校における問題行動等の有無にかかわらず、子どもの内面理解に基づいた指導が一層重要になってきています。
- 学校だけでは解決できない事例を学校内でかかえ込むことなく、保護者や関係諸機関等との協力関係を築きながら、子どもにとっての最善の方法を考えていく必要があります。
- 睡眠不足など、子どもの生活習慣の乱れによる、身体的健康状態について、個々の状況を再認識する必要があります。
- 運動部活動等、スポーツの指導においては、子どもの日々の健康状態を把握し、からだの発育・発達に関する正しい理解をした上で、指導にあたる必要があります。

2 子ども・保護者・教師の思い

(1) 子どもの思い

- 大多数の子どもは将来に対して前向きな考え方をもっています。
- 半数の子どもが将来の日本の社会に積極的な関心をもっています。
- 多くの子どもが大人に対して厳しい目を向けています。
- 友人関係について、多くの子どもがイライラしています。
- 半数以上の子どもが、成績のことを大変気にしています。
- 半数近い子どもが、授業中、もっと主体的な活動をしたいと思っています。
- 友人関係にイライラしている様子が見える子どもには、孤独感や気疲れ等、さまざまな感情が伴っています。
- 授業や学校生活、性に関する悩みについては、学年が上がるにつれて増加し、学年別では中学校2年生で急増しています。
- 中学生になると、ほめられたり、認められたりすることが急に少なくなります。
- 自分や他者のよさを認めることができる子どもは、他者から認められる体験をしています。
- 家庭、学校のいずれにおいても、心の居場所を持たない子どもが1クラスに1～2人の割合でいます。

(2) 保護者の思い

- 大多数の保護者は、子どもの心は健全に成長していると感じています。
- 保護者が思っている以上に、子どもは悩んでいます。

(3) 教師の思い

- あらゆる教育活動において、教師は、子どもの意欲や主体性の無さに悩んでいます。
- 不登校やいじめ等に対して、教師はあせりを感じたり、効果的な指導方法を模索しています。
- 多くの教師が、保護者の無関心さや非協力的な態度、教師に頼りすぎる姿勢や偏っ

た考え方に対して悩んでいます。

- 多くの教師が、教師間における生徒指導の基本的な考え方の違いを感じています。
- 教職員の連携や協力体制、家庭や地域社会との協力体制の充実を図る必要性を感じている教師も多くいます。
- 教師は、個々のニーズにより、多様な研修を必要としています。

3 一人一人の子どもを深く理解するために ―共通理解に向けて―

(1) 心の成長・発達、心理等に関する理解

- 子どもは、段階的に欲求を満たすことにより、心を成長させていきます。
- 心には、欲求が満たされそうになかったり、自分にとって不都合な事態になることをさけたいときなどに、心身の緊張や不安・悩みなどをやわらげ、心の安定を保とうとする働きがあります。
- すべての子どもは、発達上の課題に取り組む過程において、保護者や教師からの何らかのかかわりを必要としています。
- 教師には、相談的指導から訓育的指導まで、子どもの状態に応じて幅広い指導力が求められます。
- 人への信頼感を無くしている子どもが、信頼関係を結べるようになるには、長い期間が必要です。
- 目的は同じでも、教師とカウンセラーはそれぞれの役割の違いを認識し、相互理解を深めながら、子どもや保護者への対応を考えていくことが大切です。
- 自分を認め、他者を認めることから信頼や協力関係が生まれます。

(2) 子どもの発育・発達とスポーツ ―心とからだを育てるスポーツ活動の在り方―

- スポーツに必要な調整力、筋力、持久力などの各要素の発達にはそれぞれ発育段階により差がみられ、そのことを理解した上で指導にあたることが大切です。
- スポーツや体力などに関する教師の正しい理解による指導をとおして、子どもは健やかに成長していきます。

4 児童生徒の理解に基づいた指導に向けて ―事例をとおして―

(1) 開発的・予防的な取組の充実に向けて

- 大多数の子どもは健全に学校生活を送っており、学校教育においては、すべての子どもを対象に、個々の子どもが持っているよさを開発し、子どもがそれぞれの個性をより発揮できるように指導する開発的な取組を、充実させていくことが求められています。
- このような取組は、豊かな人間関係の育成にもつながり、問題行動等への予防的な取組にもなります。

〔信頼関係が生まれるとき、不信感を抱かせるとき〕

- 日常の、一見ささいなことと思える子どもとの心のふれあいが、信頼関係を生み出します。子どもと心がふれあうためには、教師の傾聴的態度やコミュニケーションを図ろうとする姿勢、子どものよさを捉えるまなざしが必要です。
- 信頼関係をはぐくむには、毅然とした態度が必要な場合もあります。また、共に子どもと取り組む姿勢も大切です。授業の工夫によっても信頼関係がはぐくまれます。
- 子どもの話をゆっくり聞けなかったり、教師の一方的な指導で終わってしまったときには、子どもに不満や不信感を抱かせる場合があります。

〔ほめることの大切さ〕

- 自分や他者のよさを認めることができる子どもは、他者から認められる体験をしています。ほめることは認めることとも言われます。子どもには、自分の喜びや達成感を教師と共有できる体験が必要です。

〔参加・体験型の学習の充実 ―子どもの思いや考えを大切にした教育実践―〕

- 構成的グループ・エンカウンターやロール・プレイングの手法を用いることによって、子ども一人一人の思いや考えが大切にされ、子どもたちは、自分を見つめ直したり、友人関係を深めたりすることができます。
- 子どもたちは、生活とかかわりをもった教材をとおして、自尊感情を高めたり、自

分自身の考え方や生活を見直すことができます。

〔異校種連携や地域の教育力の活用〕

- 小学校と中学校の教師が相互交流し、参観授業や授業実践（中学校教師が小学生に）を行ったり、子どもどうしの交流を進めることにより、小学生が中学生や中学校の教師に親近感を覚えたり、中学生にとっては新入生をあたたかく迎える意識が高まったりしています。教師にとっても、意見交換をする中で、共感することや悩みを共有できるなどの成果があがっています。
- 中学校の「トライやる・ウィーク」や高等学校の職場体験学習などをとおして、子どもたちは、実社会の厳しさやあたたかさを感じたり、将来への夢を膨らませるなど心の成長を図っています。

(2) 問題を抱えた子どもへの対応の充実

- 問題行動等を矯正するといった指導のみに陥ることなく、内面の理解を図っていく中で、子どもが心を開くことができる人間関係を構築しながら、指導にあたっていくことが大切です。
- 自分を叱ってくれてもいい、怒ってでもいいから何か返してほしい、そのようなことを求めながら、自分にかかわってくれる人を求めている子どももいます。子どもの壁になる毅然とした態度も必要です。
- 子どもの問題行動等への対応については、信頼関係を基本に置きつつ、その内容によっては、学校内でかかえ込むことなく、関係諸機関との積極的な連携が求められます。

〔教師の連携と協力体制〕

- 問題行動等への対応にあたっては、その事象に複数の子どもが関わっている場合が多く、一担任だけで解決できるものではありません。そのためにも、教師間の連携と協力体制の充実が欠かすことができません。
- いじめ、暴力行為等の問題行動への対応において、問題解決が図られた事例からは、教師一人一人が、積極的に根気よく問題にかかわろうとする姿勢や、学校として規程等に縛られることなく、子どもにとって大切なものは何かを考えようとする姿勢が大切です。さらに保護者に学校の指導方針を明確にすることによって、保護者が学校に対する信頼感や安心感を感じられるようにすることも大切です。

〔保護者との連携〕

- 子どもが抱えた問題が深刻化するほど、保護者との連携の重要性は増します。保護者自身も子どもの抱える問題に対して、不安感や焦燥感を強く感じている場合が多く、教師は、保護者のこのような気持ちも受けとめながら、指導にあたることが大切です。
- 問題を抱えた子どもやその保護者の悩みを一教師が全てかかえ込むことのないよう、担任教師を支える学校内のサポート体制の充実が必要です。教師の保護者に対する理解やばしと学校内の協力体制が問題解決に至る大きな要素となっています。

〔関係諸機関との連携〕

- 子どもの問題行動等への対応については、信頼関係を基底に置きつつ、その内容によっては、関係諸機関との積極的な連携が求められます。
- 学校が問題をかかえ込まず、適切な判断の下、教育相談機関等と連携を図ることにより、より子どもの内面理解が深まり、それに基づいた指導や保護者の意識の変化をもたらします。
- 子どもが生活する環境面での改善も重要です。日頃から、PTAや地域社会との連携を図り、問題行動等に対し、それぞれが協力して取り組めるような体制づくりが必要です。
- 学校・家庭・地域社会・関係諸機関がそれぞれの機能を生かし、全市的に、学校へのサポート体制を築くための組織づくりがなされているところもあり、教師は指導者としての役割とともに、保護者や関係機関とのコーディネーターとしての資質を高めることが求められています。